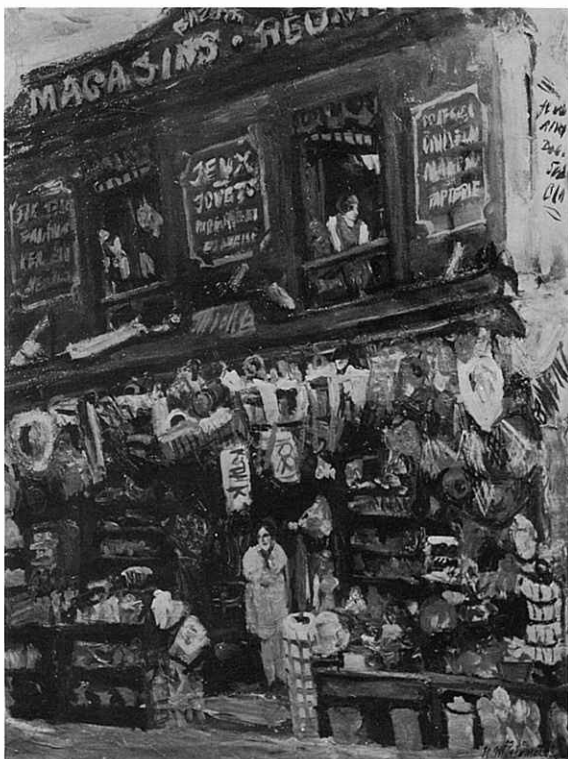


No.21

## 博物館報



ル・バザール 1931年 油彩 画布

昨年6月永眠した二科会の重鎮松本弘二は、明治28年9月現在の佐賀市兵計町に生まれている。17歳の時上京、郷土の先輩画家高木背水についたのち、黒田清輝が指導する美術研究所に通い洋画家への志を固めた。

一時は広津和郎との交遊により文学への情熱も燃やしたが、昭和15年に欧州留学後は本格的に画家としての活動を始めている。

また、はやくから二科会に所属し独自の具象の世界を拓き、昭和26年には会員努力賞、同41年青児賞、47年には「男鹿の夏」で総理大臣賞を受賞、その着実な画歴は人柄と相まって画壇の注目をあびた。

表紙挿絵は、バリ滞在中の作品で、初期の代表作の一つに数えられるものである。堅固な構成の中で、深みのあるグレーを基調に鋭い緑と赤の筆触が画家の意欲を伝えてくれる。



「ル・バザール」	1
「松本弘二遺作展」	2・3
「NHK放送のあゆみ展」	4・5
素懸明黄糸威打銅具足	
肥前燈について	6・7
博物館日誌・行事お知らせ	8

郷土の生んだ二科会の重鎮

## 松本弘二遺作展

- 主催 佐賀県立博物館
- 会期 7月20日→8月4日
- 会場 佐賀県立博物館大展示室

## 開催の主旨

松本弘二氏（1895～1973）は、本県出身の洋画家であり、同郷の先偉高木背水について洋画の手ほどきを受けたのち、独力で研さんを重ね、昭和4年には渡欧してサロン・ドートンヌに出品入選した。

帰国後は二科会に所属し、出品活躍するとともに、二科会理事、日本美術家連盟常任委員などをつとめ、現代美術の振興に尽力されたが、昨年6月なくなられた。

佐賀県立博物館では、同氏の没後一年にあたり、ここにその代表的遺作約70点を展覧し、同氏の生前の業績をしのぶとともに、広く県民の方々に美術鑑賞の機会を提供しようとするものである。

## ●松本弘二略年譜

- 明治28年（1895） 9月21日現在の佐賀市兵庫町に生まれる。
- 39年（1906） 兵庫尋常高等小学校尋常科卒業。
- 41年（1908） 佐賀県立佐賀中学校入学。
- 45年（1912） 佐賀中学中退後上京、高木背水について洋画を学ぶ。また広津和郎を知り交遊を結び文学への興味を示す。
- 大正3年（1914） 黒田清輝が指導する葵橋研究所へ入る。徴兵検査のため帰郷し第1回佐賀美術協会展へ油絵2点を出品。
- 6年（1917） 雑誌「解放」の編集に携わる。また「種時く人」同人となる。
- 10年（1921） 二科展に「水道橋駅風景」を出品し初入選（以後連続出品）。
- 昭和3年（1928） アルス社企画部長となり新刊の選定にあたる。
- 4年（1929） 3月、夫人とともに渡欧、パリの美術学校グラン・ショミエールに学ぶ。
- 5年（1930） サロン・ドートンヌに入選。
- 6年（1931） サロン・ドートンヌに入選。二科会に滞欧作「ル・バザール」他6点特別陳列される。
- 7年（1932） 7月帰国。宮本二郎氏らと新美術家協会を結成。

- 8年（1933） 二科会会友に推される。
- 10年（1935） 文展改組に際し文部省から無鑑査出品の待遇を受けたが出品せず。
- 13年（1938） 京城三越で個展。
- 14年（1939） 佐賀市公会堂で個展。満州、朝鮮地方を写生旅行。
- 15年（1940） 皇紀2600年奉祝展へ男鹿二題を出品し推賞受賞、小倉菊屋百貨店で個展。
- 16年（1941） 下関商工会議所で個展。
- 17年（1942） 中国上海地方を中心に写生旅行。
- 22年（1947） 下関で個展。第1回美術団体連合展へ出品。
- 24年（1949） 佐賀市玉屋百貨店で個展。
- 26年（1951） 二科展へ「海狸島の夏」他4点を出品。会員努力賞受賞。
- 27年（1952） 東京高島屋で個展。
- 28年（1953） 東京兜屋画廊で個展。
- 29年（1954） 第1回現代日本美術展へ花二題を出品。（以下連続出品）
- 32年（1957） 第3回日本国際美術展へ「ブルヴァール」A、Bを出品。
- 34年（1959） 宮本三郎、田崎広助、寺田竹雄氏らと友人会を結成、以後毎年東京高島屋で友人会展開催。
- 35年（1960） サロン・ド・コンパレゾーン展へ「木蘭川の夏」を招待出品。
- 36年（1961） 平戸、鹿児島地方へ写生旅行。メキシコ二科展へ招待出品。
- 38年（1963） 北海道写生旅行。
- 40年（1965） 銀座資生堂で個展。
- 41年（1966） 二科展へ「競馬」を出品し青児賞を受賞。日動画廊で個展。
- 42年（1967） サロン・ドートンヌ展へ招待出品。
- 45年（1970） 東京高島屋で個展。二科展へ「男鹿の夏」を出品し総理大臣賞受賞。
- 48年（1973） 6月29日午後2時15分、肺気腫のため逝去。絶筆「アルプス」



レモンのある静物 1933年 50.0×60.6



雪、月、花 1939年 50×60.8



海女 1950年 80.3×100



春雪 1960年 100×80

## NHK放送のあゆみ展

NHK移動放送博物館

会期	昭和49年8月11日(日)～8月20日(火)
	会期中無休
	9時から16時30分まで
会場	佐賀県立博物館 大・中展示室
主催	NHK佐賀放送局 NHK放送博物館 佐賀県立博物館
後援	佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会
観覧料	無料

NHK放送博物館は、放送専門博物館として、世界で最初につくられたものである。昭和31年3月3日、NHKの放送開始30周年を記念して、放送開始にゆかりの深い、愛宕山に、旧局舎そのままを使って開館された。さらに昭和43年9月11日新築し、再開されて現在に至っている。

### ○移動放送博物館とは

愛宕山の放送博物館に遠い地方の人々のため、毎年移動放送博物館を開催しているが、基本になっている構成は、放送の歴史展示コーナー、実験コーナー、試聴コーナー、実験スタジオの四本柱となっている。

近年、九州では、昭和45年10月大牟田市、同年11月大分市で開かれて、各会場とも10万人以上の人が入場した。

### ○佐賀会場では

NHK佐賀放送局の熱意と、放送博物館の協力によって、このたび当館において、本県では、はじめての移動放送博物館の展示を公開することになったが、下記している基本的な出品の内容のほかに、佐賀会場では佐賀放送局の計画で、県下の視聴覚教育関係の諸会合をもつことや、特別展示として佐賀県にゆかりの深い「信子とおぼあちゃん」新日本紀行「鞆割の町」など、佐賀にまつわるパターンを紹介し、郷土に親しみのある展示である。

また一般の人々にはあまり紹介されたことのないNHKテレビ字幕、テレビ舞台の背景、ドラマに使われる小道具類など、放送局内の人々によってつくられたものなどを紹介する「美術タイトル展」も併設する。更に現在いろいろの放送に使われている、小道具、小道具、例えばドラマ「勝海舟」の威臨丸模型なども、諸般の事情が許されるならば展示したい。そしてこの展示会をおし、ラジオ放送50年、テレビ放送20年のあゆみを紹介するとともに、日本における佐賀県の姿をあらためて知ることのできる展示である。

### ○展示内容

- 放送博物館出品分
- 1. 放送のあゆみ歴史展示
- 2. 音で聞く放送の歴史
- 3. 放送文化財ライブラリー
- 4. 思い出の写真アルバム
- 5. オリンピック放送思い出のアルバム
- 6. スクリーンプロセス
- 7. アニライター
- 8. 太陽電池
- 9. ポラシーン(模型)
- 10. 効果音コーナー
- 11. 国際放送コーナー

### ○主な資料

1. 文献資料
  - ラジオ聴取者第1号(通知許可書)
  - 放送開始日の放送日誌
  - ラジオ体操図解
  - 楽譜「皇太子さまお生れになった」
  - 「終戦の詔書」放送原稿、詔書とアナ原稿
  - 東京オリンピック関係
  - 放送台本「君の名は」「花の生涯」「太閤記」ほか20点
  - 受信章の変遷、門標 など
2. 機器資料
  - 鉱石受信機、単球受信機、外国式ポケットラジオ
  - 3球、4球、5球、6球受信機の各種
  - 放送局型1号受信機
  - 国民型4号受信機
  - 全波受信機
  - 5石トランジスター受信機など19点
  - マイクロホン各種19点
  - スピーカー 各種6点
  - 録音機 5点
  - K型円板録音機
  - アメリカ製ワイヤー録音機
  - 初期フォルダー
  - PT-3フォルダー
  - PT-5フォルダー
  - テレビジョン関係 10点
  - その他 2点
  - 台本、北の家族他9点
  - ラジオ初期のポスター、ラジオ列車、テレビカー
  - 等時代風景写真13点

## 会場スナップ



### ・放送のあゆみ

大正14年日本ではじめて、ラジオ放送を開始した時から現在までのNHKの歴史を紹介する。

### ・スクリーンプロセス

展示室の中に外の景色を作り出し、実際に車中にあるふんい気を出す装置。ここでは汽車の座席をセットして見学のみなさんの実験に供する。



### ・国際放送コーナー

NHKは1日23時間30分、23種の言語で海外向けの放送をしている各国語の放送を紹介する。

## 資料紹介

## 素懸萌黄糸威打出胴具足

## 肥前鎧について



この甲冑は、佐賀郡久保田町の村田家に伝えられてきたもので、竜造寺隆信所用の鎧といわれている。村田家は藩政時代、佐賀藩の親類格で、竜造寺政家（隆信の嫡男）の二男、安良が姓を村田と改めてから今日に至っている。

この甲冑は、当世具足で胴は鉄錆地、胴高45cm、二枚の胴を左右で引合せるようになっている。前胴には「烈」の字を大胆に打ち出し、後胴は南蛮胴式に南蛮襟を打出している。内側はいずれも皮で内張りをほどこしてい

る。草摺は6間で、黒漆塗板物3段下り素懸の萌黄威で、掻き糸は白色である。袖は当世風の仕付袖で、山形の上冠板3ヶ、横に5枚の板物を各々蝶番付とし、10段に毛引で下している。威毛は萌黄で板物は各々金溜塗をほどこしている。また籠手は、6本の籐籠手で内側の2本は各々2個の蝶番付とし、手甲と籐板は金溜塗をほどこしている。楯幅は鉄錆地の伊予札を萌黄糸で菱縫で縫め、於女里に七五桐と十二日足の紋を染抜きにしてちらしている。兜は62間の筋兜で、兜鉢の前後26cm、左右23cm、高さ12.2cmで、朱色のちりめんで浮張りをし、兜裏には宗久作の銘がある。鞆は黒漆塗板物3段素懸、1段の吹返しで五七桐紋を据付けている。頬当は隆武類で黒漆塗、汗流穴1ヶをつけ、垂は板物3段素懸である。鞆、垂の威毛は、草摺、袖の萌黄糸より濃緑で異っている。したがってこの兜は銘、威毛からみて、鎧とは別物で補足したものである。

打出胴は、主に金工術の発達した江戸時代から当世具足に使用されたもので、和製の南蛮胴や仏胴に文字、模様を打出したのが多い。

佐賀藩では、具足師宮田派の勝貞、勝益、勝貞の作にみられる。一般にこれらを佐賀胴と呼んでいる。（笹間良彦著 図解日本甲冑事典 山上八郎の「日本甲冑の新研究上巻」や福永静剣、寺田頼助共著「肥前の刀と鎧」には「中古甲冑製作辨下巻」（寛政11年榊原香山）「名甲図鑑続編」（松宮親山）掲載の勝貞の打出面頬や勝益の不動尊打出胴が紹介されている。

宮田家の系図によると、宮田家は2代の貞俊の時、藩祖直茂から扶持米100俵で召抱えられている（慶長19年）それ以来、この一派は佐賀の甲冑具師として宮田または春田（屋）の姓で幕末まで岸川間川に住していたことが太田尾彦治氏の調査によって判明している。

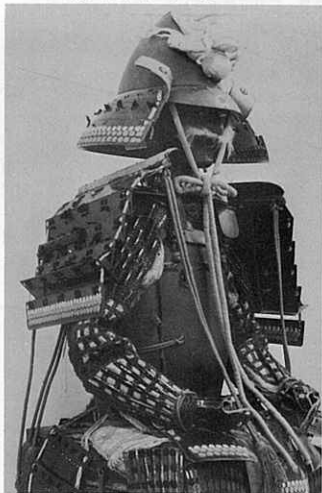
この宮田一派が得意としたのは、鉄錆地の打出胴であり、その特色は草摺の板物3段下り素懸である。また勝貞の鎧にみられるように肩上、小髯、仕付袖、手甲等の板物には好んで蝶番を利用し、裝飾が少なく極めて実用的にできている。勝貞は「奇代之良工」で「三国無双」の名甲冑師といわれており、7代勝益も数百領の甲冑を注文に応じて種々製作したといわれている。

ここに伝えられる竜造寺隆信所用といわれる甲冑は、その様式からみて明らかに江戸期の宮田派による当世具足である。なおこの外、県内でこの宮田派の特色を有する具足に、祐徳博物館蔵の9、11、12代各藩主所用といわれる3領や村田家所蔵の2領、その他数領が現在判明している。

これらの具足は、その特性と地域性からみて、「肥前鎧」と命じ、この名称で今後は、あらたに究明していくことにする。（学芸課 尾形善郎）

## 肥前鎧

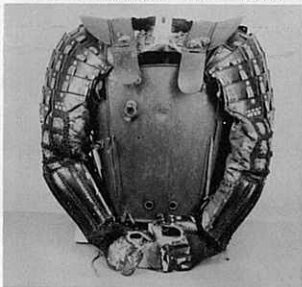
例1 素懸黒糸威五枚胴具足



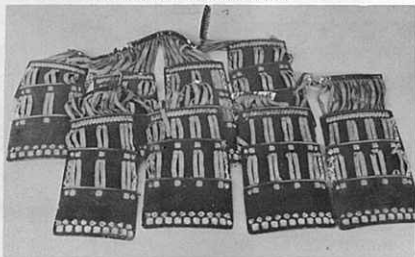
例2 素懸萌黄糸威打出胴具足



例3 五枚胴、籠手（勝貞作鎧部分）



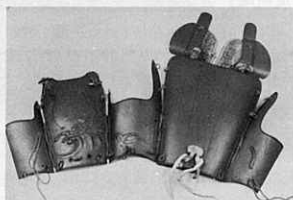
例4 三段素懸草摺（勝貞作鎧部分）



例5 海、日輪打出五枚胴（勝貞作）



例6 雉字打出五枚胴



## 博物館日誌

- 4月5日 佐賀市川原町富岡ファミ氏から「小笠原長行筆二行書」1幅、「古賀穀堂筆七言一行書」1幅の寄贈を受ける。  
佐賀市大財深川マス氏からバリ万博出品カタログ類の寄贈を受ける。
- 4月9日 神奈川県副知事来館。
- 4月11日 山上八郎氏来館。
- 4月17日 武雄市武内町丸田正美氏から「伊羅保草文菓子器」、「鉄絵香合」の寄贈を受ける。  
県庁新採職員 120名、新採研修のため来館。
- 4月26日 武雄市東川登町江口勝美氏から「和紙染花

文盛器」の寄贈を受ける。

- 5月5日 「常設展」子供の日のため無料公開。
- 5月7日 白石町福吉井上徳二氏から「船魂さん」「停泊艇」「櫓」の寄贈を受ける。
- 5月10日 「佐賀県の漁撈と水鳥展」開場（大展示室）
- 5月12日 裏千家淡交会青年部（県支部）茶会 350名
- 5月17日 九州芸術工科大学生30名来館視察。
- 6月9日 「佐賀県の漁撈と水鳥展」終了。  
宗偏流青年部（佐賀支部）茶会60名。
- 6月12日 NHK放送博物館久松国男氏、岩崎恒夫氏  
NHK移動放送博物館「放送のあゆみ展」  
打合せのため来館。
- 6月14日 ドイツ民主共和国（東ドイツ）の駐日大使  
ホスト・ブリエ氏夫妻、鶴島直昭氏来館。

## 行事お知らせ

修学旅行の計画に博物館の見学を折込んでください。

	常	設	展
佐賀県の歴史と文化展	49年7月14日～9月1日 12月7日～3月31日	1・2・3号展示室	月 曜 休 館

展 覧 会 名	企 画 展		
	会 期	会 場	備 考
松本弘二遺作展	49年7月20日～8月4日	大 展 示 室	常設展と併設・月曜休館 （会期中無休）
NHK放送のあゆみ展	8月11日～8月20日	大・中展示室	〃
東光会展	9月7日～9月16日	1・2・3号展示室	会期中無休
理科作品展	9月15日～9月25日	大・中展示室	〃
岡田・久米・百武三人展	9月21日～10月23日	1・2・3号展示室	〃
第24回佐賀県美術展	11月2日～11月10日	1・2・3号・大・中展示室	〃
松方コレクション展	11月16日～12月1日	1・2・3号・大・中展示室	〃
佐賀県高等学校美術展	12月18日～12月22日	大 展 示 室	〃
新道跡資料展	50年1月25日～2月23日	大 展 示 室	常設展と併設・月曜休館 会期中無休
肥前名刀展	3月2日～3月23日	大 展 示 室	〃

## 茶室『清恵庵』をご利用ください。

開室時間 毎日午前9時から午後4時30分  
休 室 日 毎週月曜日、国民の祝日の翌日、12月28日  
から1月4日まで  
使 用 料 4時間……… 1,500円  
8時間……… 3,000円  
光熱水費として1時間当たり30円  
使用申込は使用希望日の10日前までに当博物館に申  
込んでください。

博物館報 第 21 号  
発行年月日 昭和 49 年 7 月 1 日  
編 集 大 園 弘  
発 行 佐賀市城内一丁目15-23  
佐賀県立博物館  
印 刷 合資会社 音成印刷所